



トヨタ自動車株式会社代表取締役社長  
張 富士夫

20世紀を通じ、科学技術の発展には目覚ましいものがありました。その一方で、地球環境を省みますと、都市部における大気汚染、水質汚濁などの局地的な問題に止まらず、温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊など、グローバルな規模に到るまで問題が拡大していることは、皆様ご高承のとおりでございます。

私どもトヨタ自動車は、自動車会社として、また、社会の一員として、このような状況を真摯に受け止め、『地球環境との調和』を、経営上の重要な課題と考えております。そして、1992年には『トヨタ地球環境憲章』を制定し、現在も、その精神にのっとり『トヨタ・エコプロジェクト』を推進するなど、環境負荷の低減に積極的に取り組んでまいりました。

具体的には、内燃機関であるエンジンから発生するCO<sub>2</sub>やNO<sub>x</sub>等の排出量の削減をはじめ、自動車のライフサイクルである『生産・利用・廃棄』の全ての段階での『ゼロエミッション』に挑戦しております。1997年に発売を開始しましたハイブリッド車『プリウス』や現在開発中の『燃料電池車』は、この活動の一環でございます。また、リサイクル実効率95%を可能とする『リサイクル設計』を、2005年までには全ての車両へ織込むことを目指して取り組んでまいります。

これらの活動に加えまして、CO<sub>2</sub>など、いわゆる環境負荷物質と、これらの物質を吸収・固定する、自然界の持つ力との関係について、研究を進めておりますのが、『トヨタの森』計画でございます。愛知県豊田市にございます「フォレストヒルズ」という場所で、この計画の『モデル林』を整備し、緑の保全や活用に係わる様々な『環境緑化』技術の研究を進めるとともに、年間千数百人にもものぼる、行政はじめ関係の皆様方のご視察を受けてまいりました。

また、96年には、多くの学識経験者によります環境研究会『杜の会』を設立し、『トヨタの森』計画の理論的な後ろ盾となつていただくと共に、『里山の再生』及び、『森林資源の活用・循環』というテーマで、二度にわたつてご提言をいただきました。そして、その提言を具現化し、環境緑化に携わる人材を育成していくために、環境教育プログラム『エコのもりセミナー』を展開してまいりました。

本日のシンポジウムは、これまで行ってきた『杜の会』や『エコのもりセミナー』等の活動を、皆様と共に振り返り、ご意見をいただくことにより、今後の活動を更に充実した形で展開していきたい、との思いから、開かせていただきました。

私どもといたしましては、『人と自然が共生できる新たな社会システムの構築』、『環境緑化に取り組む人材や技術の育成』、また、『市民・行政・研究者・企業のパートナーシップ』等の各テーマについて、今後のあり方や取り組みの指針となるようなご示唆をいただけるものと期待しております。

私どもトヨタ自動車は、多くの方々と環境問題について考え、積極的に環境への取り組みを進めてまいりたいと存じます。今後とも皆様からの一層のご指導、ご協力を賜わりますことをお願い申し上げます。



社団法人日本環境教育フォーラム理事長  
北野 日出男

私ども日本環境教育フォーラムは、日本の風土にあった環境教育を探っていこうという何人かの呼びかけから、1987年に山梨県清里の地に集まったことから始まります。「あくまでも環境に関心を持って、関わっている一個人として発言する」ということを原則に、自然保護や環境保護団体、民間教育事業の方々、省庁や自治体、企業やマスコミなど当時、すでに第一線でご活躍なさっておられました多くの方々が、立場を超えて熱く語り合う3日間を過ごしたわけでございます。それは、実り多く、課題も多い集まりとなりました。

そして、「5年間で終わりにしよう」ということで、年に一度、互いの共通の課題を共有する場として「清里環境教育フォーラム」をスタートさせました。この5年間では、人から人へ広がり、行政、市民、団体、企業、教育機関など様々な人たちによって、大きな活動へと発展してまいりました。

1992年、年に一度の集いの場での経験や仲間との関係性を「やはりこのまま終わらせるのはもったいない」と、過去5年間の蓄積と精神を受け継ぎ、恒常的に活動していくネットワーク組織として、「日本環境教育フォーラム」が任意団体で発足いたしました。そして1997年4月には、環境庁所轄の社団法人として元環境庁長官でいらっしゃいました故原文兵衛さんに初代会長をお願いいたしまして、新たにスタートをいたしました。私どもは、一貫して、自然体験活動を中心とした環境教育活動の普及を目指し、情報収集とその提供、人材養成や調査研究、企業、地域社会など民間による環境教育活動への支援、出版活動、自主研究、受託事業などに努めてまいりました。

1998年に、学際的な研究団体である「杜の会」の提言を受けたトヨタ自動車さんから、里山を守り育てる人材育成事業についてご相談をいただきました。私どもの会としましても、里山という身近な自然環境における事業は大切な課題です。それから、互いに検討に検討を積み重ね、エコのもりセミナーがスタートいたしました。そして、3カ年の成果として本日のシンポジウムを迎えることができました。

20世紀は物質的な豊かさを求め拡大し続け、地球上の資源や環境を浪費する形で深刻な環境問題を引き起こしてしまいました。この環境問題を解決していくために、3つの重要な取り組みがあります。環境に配慮した法律や条例で規制していく「環境規制」。そして、持続可能な科学技術の進展を目指す「環境技術」。最後に、個人のライフスタイル変更のきっかけづくりを進める意識改革としての「環境教育」です。

常に環境を考え考慮された「環境技術」について、真正面から取り組んでいらっしゃったトヨタ自動車さんと、一人ひとりの意識改革として環境教育に取り組んでまいりました私どもとのパートナーシップで、3カ年取り組んでまいりましたエコのもりセミナー。立場を超え、領域を超えた様々なコラボレーションが、21世紀の社会システムを創りだすきっかけになると考えてまいりました。本日は「森を軸とした社会システム」としてのコンセプトを、シンポジウムを通じて議論していくきっかけになるものと期待しております。

私ども日本環境教育フォーラムは、これからも多くの方々と一緒に、「私たち自身が創りだす未来」について考えていける場をつくっていききたいと思います。今後とも皆様からのご指導、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。